

ぜんしゅりきょり

2013
6月
June

通巻74号

第26回通常総会を京都で開催!!

平成25年5月21日(火)、京都ホテルオークラにて第26回通常総会が開催されました。総会の出席状況は、組合員数367名に対して、出席組合員数91名、委任状出席者167名、合計258名で出席率70.3%。定款38条に定める総会成立条件の過半数を超え、本総会は有効に成立いたしました。



司会の西春貞男氏

5月21日(火)。午前中は6名による三役会、午後からは各委員会・

ニューリーダー部会・役員会が開催され、その後西春専務理事司会のもと通常総会が行われました。三村博昭副理事長より開会の辞、本年度お亡くなりになった方への黙祷、新会員の紹介の後、小堀理事長より総会のご挨拶。今回は安田松慶氏(前全日本宗教用具協同組合理事長)が春の叙勲で旭日小綬章を授章され、報告が行なわれました。会場全体がおめでたい雰囲気になりました。講演会では、露口卓也先生に講師としてお越しいただき、「会津戦争と八重」をテーマにたいへん興味深いお話しをしていただきました。今回、全国中小企業団体中央会・総務企画部副部長大和滋様にご来賓としてお越しいただきました。大和様には5年間に渡り中小企業等の協同組合の運用や解釈について全宗協へのご指導をいただいております。今年ご参加いただいております。その後の懇親会では祇園甲部の祝舞をご披露いただき、開催キーの受け渡しが行なわれ「日目を終りました。5月22日(水)。京都の皆様のご協力でのエクスカッション・ゴルフコンペ、ニューリーダー部研修会が滞りなく行なわれました。

◆通常総会

①小堀理事長より総会ご挨拶

本日は北は北海道北見市、南は鹿児島県南九州市まで全国各地からご参集いただき篤く御礼申し上げます。今日は第二十六回の通常総会ですが新しくご入会された方もいますので、全宗協の沿革を手短かに説明します。



挨拶をする小堀賢一理事長

私の手元にあります昭和四十余年発行の「日本宗教用具組合の沿革」を、長いのでごく一部だけ読みます。第一として「日本神仏具統制協会」というものが書かれています。昭和十二年勃発した盧溝橋事件は局地解決の努力もむなし(中略)主要生産地の東京・京都・大阪等の主な業者が相会して協議を進めるに至った云々とあり、その後に名前を変えながら五つくらいの協同組合、あるいは任意の組合が営まれています。

またその後、全日本宗教用具組合連合会ができて、昭和六十二年東京において全宗協が設立された、という経緯を辿っております。総会では前年度の事業報告・決算報告がありますが、事業計画については平成二十五年度と記載されています。すけど、例えば企業経営では単年度の事業計画だけではなしに中期経営計

②各委員会事業報告

面のようなものも作成されていると思います。全宗協の平成二十五年度の事業計画も単年度のものではありますが、少し先のことを見越したことも書かれております。この議案は直前の二回の理事会で承認されたものですので、どうぞ関心を持ってご質問いただきたいと思っております。宜しくお願いいたします。(了)

総務委員会 吉田光宏委員長

・平成24年10月3日～4日 平成24年度第一回全国研修会をメルパルク京都及び霊山歴史館で実施。今回は「業界に維新を！宗教用具がかかえる問題点とその解決策」を基本テーマにカリキュラムを組み立てた。今年も中央会の補助を受けて開催した。

・平成25年2月25日 第2回全国研修会をホテルラングウッドでニューリーダー部設立の周年式典と合わせて開催。

広報委員会 保志康徳委員長

・平成24年9月12日～13日 広報委員会名古屋にて開催。事業内容検討・名古屋城修復見学等

・平成25年3月～4月 降誕祭・花祭りの啓蒙活動、花祭りポスター・啓蒙八ガキの配布

正常化委員会 森正委員長

・仏壇公正取引協議会との連携を図り、仏壇公正規約の説明会、規約の研

究や普及活動
・仏壇公正競争規約説明会を計20回開催(他団体主催含む) 参加者 合計554名

ニューリーダー部 廣川俊輔部長

・平成24年5月22日 平成24年度ニューリーダー部総会、卒業式
・平成24年9月4日～5日 比叡山研修会



各委員会



総会の様子

【目次】

P1	通常総会
P2	懇親会・新会員紹介
P3	叙勲のご報告・地区協議会役員及び委員名簿
P4	講演会・ニューリーダー部総会
P5	エクスカッション・ゴルフコンペ
P6	ニューリーダー部研修会・事務局からのお知らせ

③ 叙勲の報告

小堀理事長の司会で

叙勲の報告が行なわれました。



理事を退任される安田松慶氏に小堀理事長から感謝状と記念品の贈与

「4月29日に政府の方から発表がありましたので既にご存知かも知れませんが、この度安田松慶堂代表取締役会長安田松慶さんが春の叙勲で旭日小綬章をご受賞になりました。5月14日、伝達式に続き皇居へ陛下の拝謁に行かれたというご報告

を承っております。当組合は、昭和62年に全日本宗教用具協同組合として立ち上がりましたが、安田様にはその前から協同組合設立という事でたいへんなご尽力を頂戴しました。その後、仏事コーディネーター制度を創設していただき、またニューリーダー部会の設立、或いは仏壇コンテスト、様々な方面でご尽力いただきました。この度の表彰というのは、産業功労者賞ということでございます。本心に心からお祝いを申し上げます。ありがとうございます。」

【安田松慶氏より】

「ただいま小堀理事長よりご紹介いただきましたありがとうございます。身に余る光栄と言いますか、思いがけずと言いますか、叙勲を賜ったわけですが、ありますがこれもひとえに全宗協の皆様方の支えとそして特に小堀理事長はじめ三役の方、そしてまた事務局局長はじめ局員の方のご尽力あってこそこのご推薦をいただいて今日、このようになったと思っております。これからは益々皆様のお力添えをいただきましてこの全宗協の発展に尽力していきたいと思っております。家内ともども皇居を参拝し、天皇陛下をご拝謁させていただき、本当に身に余る光栄でありました。これも皆様方のご支援の賜物と、深く、深く感謝を申し上げます。次第でございます。本日はまことにありがとうございました。」

④ 懇親会

今回の総会開催地、京滋地区橋本晃一会長より小堀理事長へ開催キーの返還、そして次年度開催地、関東甲信地区前田平成会長へ開催キーの伝達が行なわれました。

【前田平成会長】
「来年5月の総会は関東甲信地区で受けることになりました。地区メンバー全員揃いまして頑張っておりますので、一人でも多くの方が来年の総会にお出掛けいただければありがたいと思っております。よろしくお願いたします。」



京滋地区協議会から鍵の返還



役員会



関東甲信地区協議会へ鍵の受け渡し

新会員紹介(24年度新規加入組合員)

- | | | |
|------------|--------------|--------|
| ①兵庫県(阪奈兵和) | 株式会社 森田石材店 | 森田茂樹 様 |
| ②京都府(京滋) | 株式会社 岩田宝来屋 | 岩田和義 様 |
| ③岡山県(中国) | 昭和堂佛具店 | 常盤和也 様 |
| ④静岡県(東海) | 法月 株式会社 | 法月元春 様 |
| ⑤滋賀県(京滋) | 株式会社 伊藤仏壇 | 伊藤 晃 様 |
| ⑥福岡県(九州沖縄) | 株式会社 中島晴薫堂 | 中島康憲 様 |
| ⑦京都府(京滋) | 株式会社 田中伊雅佛具店 | 田中雅一 様 |

安田松慶氏が春の叙勲で 旭日小綬章を受賞されました

これは全日本宗教用具協同組合としては初めての事で、たいへん名誉なことです。

安田松慶氏 株式会社安田松慶堂代表取締役会長
「コメントをいただきました。」



旭日小綬章を受賞された
安田松慶氏

▼まずは現在の心境をお願いします。

「全宗協の価値を国が認めてくれましたし、小堀理事長をはじめとして歴代の理事の方々の力が積み重なったものだと思っております。今後ぜひ引き継いでほしいですね。」

▼お仕事に対する思いなどを。

「わたくしどもは関東大震災や第二次世界大戦で家や職場が丸焼けになりました。東京の人は裸一貫から始めたことが2回あります。これを乗り越えてさらに以前よりも、ということはいへんなエネルギーだったと思うんです。今までのものを捨てて新しく、しかしこれは逆の見方をすればチャンスだったとも言えます。戦後の第一次仏壇ブーム、家具が売れると仏壇も売れる。我々業界の規模もどんどん大きくなる、そんな時代でした。その後景気が悪くなり、今の経営方針などが大事に

なってきました。堅実な経営方針や家訓というものがきちんとしていないとやっていけません。質実剛健。あの店は良い店だよと言われるなど、信用を第一と考えています。」

▼これからの全宗協に望む事は？

「たとえば運営方法などを、各業界の代表が役員に入って結束していかないと、信仰心や宗教観が薄れてきている昨今では我々の業界は構造的に斜めになってしまっています。お盆やお彼岸、そういうものに対する認識もほとんどありません。皆でもっとアピールしていく必要があると思います。」

▼今後の全宗協へのメッセージをお願いします。

「仏壇は心のよりどころ」という気持ちをもっと浸透させるべく、業界としてもっと訴えていけたらと思います。」

安田松慶氏の経歴及び業界(当組合)での貢献

(民間団体歴)

自	昭和63年4月20日	全日本宗教用具協同組合	理事
至	平成9年5月13日		
自	平成9年5月14日	同上	常任理事
至	平成10年5月13日		
自	平成10年5月14日	全日本宗教用具協同組合	副理事長
至	平成12年5月16日		
自	平成12年5月17日	同上	理事長
至	平成20年5月19日		
自	平成20年5月20日	同上	理事
現在			

- ・業界(当協同組合)での貢献
- ・需要開拓及び技術向上に関する功績
- ・品質表示及び仏事コーディネーター資格制度等に関する功績
- ・誇大広告の自粛に関する功績
- ・人材育成に関する功績
- ・ニューリーダー部の創設
- ・組合活性化への取り組み

地区協議会役員及び委員名簿(平成24年度～平成25年度)

●委員長 ○副委員長

地区	地区協議会会長	地区協議会副会長	総務委員会	広報委員会	事業委員会	正常化委員会	会員増強委員会
北海道 東北	八田 守立	升谷 昇平 丸屋 輝夫	升谷 昇平 藤村 義郎	●保志 康徳 小嶋 長一	丸屋 輝夫 佐々木 丈巳	小野 隆市 兒玉 高周	八田 守立 佐藤 仁一郎 佐藤 晶洋 渡部 徳章
関東 甲信	前田 平成	坂田 晴義 山田 宗宏	松野 智幸	内田 長祐 川本 恭央	鳥居 邦夫 辻 幸明	山田 宗宏	小森 規興志 小仲 正克 前田 平成
北越	池田 典明	本保 実 木本 隆久	廣川 勝彦 関 秀道	木本 隆久 山口 敏雄	●池田 典明 大竹 正信 星野 幸博	笠原 他喜雄 大越 則夫 岐津 晃平	藤田 整司 竹澤 惠子 吉田 竹也
東海	井上 芳徳	小長井 由朗 林 恒男	杉浦 伸司 菱田 孝行	林 恒男 ◎横井 浩	小室 健次郎 水野 清仁	小長井 由朗 坂 新太郎	井上 芳徳 水野 清仁 ◎河田 栄治
京滋	橋本 晃一	吉田 光宏	●吉田 光宏 刑部 正巳 土屋 隆武 大久保 武	三浦 豊隆	◎岸本 光史	神戸 良司	●橋本 晃一 小林 大介 畑 正高
阪奈 兵和	佐倉 弘	濱田 明彦 山中 誠人	山中 誠人 中田 信浩	濱田 明彦	◎中造 和夫	佐倉 弘 松谷 和美	福井 正彦 下村 暢作
中国	高山 正	今浦 公博	今浦 公博 川嶋 孝英	高山 正 藤田 孝夫	田戸 孝雄 中原 博	三村 博昭 横田 正登	三村 邦雄
四国	今山 秀人	森 正	木下 進 松浦 宏治	高井 一憲 立花 孝文	吉本 康彦 依岡 敏治	●森 正 岩佐 武彦	上林 敏成 岸本 耕三 今山 秀人
九州 沖縄	江頭 那将		◎江頭 那将	野上 嗣之	東 純一	◎白川 十郎	武田 洋子
担当副理事長	担当副理事長		内田 長祐	内田 長祐(兼)	池田 典明	三村 博昭	八田 守立

講演 「会津戦争と八重」

同志社大学教授 露口卓也先生

NHKの大河ドラマは鳥羽伏見の戦いに入りました。八重は一月間籠城の戦いをするわけですが、その意味でこの講演はタイミングがよいと思います。



八重は二十四歳で明治維新を迎えます。ということとは彼女の精神形成は会津でやっているという事です。彼女の価値観は「近世」という時代に形成されました。「近世」とは「大名領国制」で

す。彼女の価値観は「近世」という時代に形成されました。「近世」とは「大名領国制」で、すから、近世の人たちにとっては領国が全世界。しかし、武家はより正確な言い方をすれば、会津松平家に忠実に生きていく。主君への奉公が生き方の核心です。男も女も同じです。その松平家の「家訓」の第一条に徳川家への忠誠がある。そして「武」が濃い藩であったことが不幸の元でした。

なぜ会津だけがかくも痛めつけられたのかと言いつと、その「家訓」によって京都守護職を任せられたことが原因でした。徳川家への忠誠心の強い容保と会津藩は治安維持の兵力として活用され、尊攘派の恨みを買ったこととなります。戊辰戦争に勝利した新政府は各地に征討軍を出し、錦の御旗の下に諸藩を降伏させていきます。容保も恭順の意を示し、東北諸藩も奥羽越列藩同盟を結んで会津の救済運動に乗り出しますが、結局許されずに戦いとなります。政府軍が城下を急襲したとき兵士は前線に出て、会津城下は老人と女子供だけ。混乱の極みです。選択は三つ。①自殺(自刃)、②郊外へ避難、③入城。武家の奥方が判断するのですが、一家で自刃というケースも多々ありました。八重はみずから望んで入城を選択します。主君のため、亡き弟の敵討ちのためと、男装で最新式のスペンサー銃をかついでの入城です。男の兵士に交って夜襲に参加したり、夫と共に大砲を撃つたりもしました。八重は兵士として奮闘しました。

でも奮戦空しく降参。その夜城の物置の壁に「明日の夜は何国の誰が眺むらん 慣れしお城に遺す月影」という歌を書付けます。八重にとつての敗戦は、落胆ではなく、真つ直ぐ顔を上げ敵と対峙するものでした。そこには悲愴さより元気が感じられます。理不尽を追及するのが男の世界ですが、八重は男でもなければ普通の女性とも違い、新しい時代に向かって行こうとする姿勢です。この後京都に移ってからのことはぜひ同志社大学に来て聴いて下さい(笑)。本日はご静聴ありがとうございました。(了)



露口卓也先生プロフィール

1947年のお生まれ。
現在、同志社大学文学部教授。
専門は日本近世、近代思想史。主な研究対象は、幕末維新期の思想、近代女性史、同志社史。

ニューリーダー部 総会

ニューリーダー部総会は5月21日正午より京都ホテルオークラで行なわれました。

ニューリーダー部部長 廣川俊輔氏

ニューリーダー部の目的は、業界のあるべき未来を考え、それに向かって行動し、そして明るいものとなるようにしていく事であることは間違いのないことですが、それと同時に、部員各々の会社、お店の未来も明るいものとなるよう行動していかなければなりません。

その為に「技」「商」「心」の3つの大きなテーマのもとに研修、研究を企画運営すべきであり、そしてそれぞれの研修は回数を追うごとに常に「深化」し、同じような研修であっても新しい発見と刺激があるべきと考えます。

今年度ニューリーダー部は、業界のニューリーダーとして成長できるよう、今まで以上に部員一同が「共に学び、共に進む」の基本理念の元、未来に向かって進んでいきたいと思えます。その為に魅力ある、また楽しさのある、そして常に「深化」した研修会・見学会・研究調査等の企画、運営を心掛けて参りたいと思えます。

何卒、宜しくお願い申し上げます。

ニューリーダー部の基本方針

「技」「商」「心」という大きな3本の柱とその「深化」です

- ① 商材である仏壇仏具の製造工程の見学を主とする。「技」の研修
- ② 会社の経営・運営に関する講義、市場の研究調査を中心とする「商」の研修。
- ③ 感性・人間力の向上を目指した「心」の研修。

事業計画

- ・研修会の開催
- ・部員の増強及び参加者の増加
- ・業界の実情及び今後の業界のあり方についての研究調査
- ・懇親会の開催
- ・親組合事業への参加と協力
- ・その他、役員会で必要と認めた事業



ニューリーダー部 京都研修

（協）神戸珠数店 神戸伸彰氏

今回の京都研修は、本年度のNL部の「技」「商」「心」を深化させるという部長方針に基づき、「技」を京都の仏具団地の職人さんから。また、小堀理事長の山科工場からは「技」「商」の研修という予定で行いました。仏具団地においては、「木地」「塗り」「金箔」「錆り金具」の4ヶ所を見学。京都の商品は高いといわれていますが、どういう工程で作業を行い、そこにどんな工夫や苦労があるのかということを感じ取ってもらえたのではないかと思います。

午後からの小堀様山科工場では、実際にお客様が来られた時と同じ工程で進めていただきました。小堀さんのお客様に対する気持ち、驚きだけでなく感動を持って帰っていただくという姿勢は、同業の私達も感動する内容で、それぞれが非常に勉強になったと思います。短い時間の中で知識・気持ちを深化できた有意義な京都研修であったと思います。



実際の行程を見学させていただきました



小堀様にて金箔押し体験をさせていただきました



株式会社小堀様・工場にて

* 5月22日 京都研修スケジュール表 *

9時ホテルオークラロビー集合

山科仏具団地見学

- ① 木地(疋田様)
- ② 塗り(中谷様)
- ③ 金箔(花澤様)
- ④ 錆り金具(吉川様)

午後から株式会社小堀様山科工場見学

16時京都駅解散

事務局からのお知らせ

1. 当面のスケジュール

平成25年8月下旬 役員会（東京）未定
平成25年9月11日（水）～12日（木）
ニューリーダー部北陸1泊研修会
平成25年10月1日（火）～2日（水）
全宗協研修会（メルパルク京都）

2. 組合員数 平成25年6月28日現在 369名

新規加入者 平成25年3月23日以降

- ①(株)小島仏具店 小島勇次 様
- ②(株)みずほ 馬場政彦 様

3. 組合関係者の訃報

（平成24年11月7日～平成25年6月18日）

【九州沖縄地区】

（有）花田佛具店（花田宗憲様）ご尊父 花田安男様

平成25年6月17日 89歳

